平成２７年度　子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業
吉備の森　野外教育体験会

１. 事業の目的（趣旨・ねらい）

吉備の森の中で様々な野外教育体験を行うことで、野外教育の展開方法や指導方法を学び、対象者やアクティビティの新しい視点を持つ機会とする。

２. 事業の概要

（１）期日

第１回　　５月３０日（土）【アイスブレイク体験】日帰り
第２回　　６月２０日（土）【仲間づくりゲーム】日帰り
第３回　　８月２９日（土）【仲間づくりゲーム】日帰り
第４回　１０月３１日（土）【ネイチャーゲーム】日帰り
第５回　１２月　５日（土）【イニシアチブゲーム】日帰り
第６回　　２月　６日（土）【マインドマップ】日帰り
第７回　　２月　７日（日）【事業の企画立案とＫＰ法】日帰り

（２）参加者

①募集対象

教職員、施設職員、施設ボランティア、体験活動指導者、青少年団体関係者、野外教育に興味のある１８歳以上の方

②参加人数

第１回　　３人
第２回　　６人
第３回　　４人
第４回　　２人
第５回　　４人
第６回　１０人
第７回　　９人

（３）講師等

第１回～第５回
国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職
第６回　株式会社　RePrism　代表取締役　矢嶋　美由希　氏
第７回　公益財団法人キープ協会　環境教育事業部　事業部長 増田　直広　氏

（４）企画・運営のポイント

①　自分のフィールドでうまくいかないことがあれば、吉備にきたら解決の糸口がみつかると思ってもらえるよう、アイスブレイク、ネイチャーゲームなど研修内容に幅を持たせた。

②　学んだことが参加者それぞれのフィールドで生かせるよう、それぞれの参加者の環境を意識し、内容を組み立てた。

３．活動の内容等

（１）日程

第１回～第５回	
時間	内容
9:00	受付
9:15	開会行事
12:00	昼食（持参弁当）
13:00	解散

第６回		第７回	
9:00	受付	9:15	受付
9:30	開会式	9:30	講習③
10:00	講習①	12:00	昼食
12:00	昼食	13:00	講習④
13:00	講習②	15:30	閉会式
16:00	解散	16:00	解散

（２）活動の状況

【アイスブレイク　5/30】

【アイスブレイク　6/20】

【仲間づくりゲーム　8/29】

【仲間づくりゲーム　8/29】

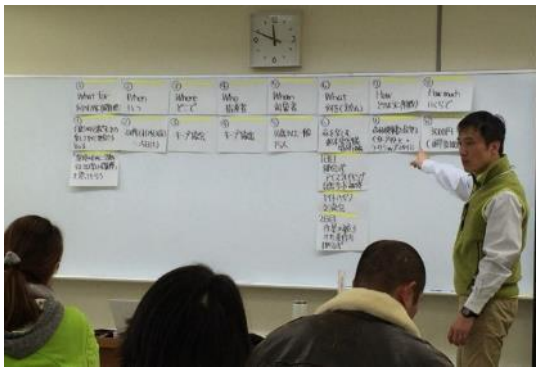
【仲間づくりゲーム　8/29】

【森のスタジアム（自主企画）11/28】

【イニシアチブゲーム　12/5】

【マインドマップ講座　2/6】

【マインドマップ　2/6】



【事業の企画立案　2/7】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：１００％

（２）参加者の声

① 体を動かして汗を流すことや、お互いに触れ合うことで、知らない人との間の緊張が次第に溶けていくのを感じることができました。ただ楽しく遊ぶだけでなく、実生活で生かせるようなフィードバックをするということを意識して活動したいと思います。

② 楽しく活動しつつ、活動そのものを冷静に分析しているなという自分に気付きました。流れが分かるようになっていることに気付きました。そこが勉強になりました。

③ これから学校で、どう生かしていくか考えることができた。

④ 人の話をきく中で、自分のところとつなげたり、みんなで話したりすることで雰囲気がよくなっていったこと。外に出てアクティビティをして楽しむとともに、自分のフィールドでもできそうだと思ったこと。

⑤ 自分にとって、今なにが必要かを考えることができた。アクティビティを通して楽しくかつ学ぶことができた。

⑥ 自分で作ってみることで、どんどんイメージが膨らんでくるのが分かりました。自分と向き合うのに最適だなと思いました。また、分析する面白さもあり、様々な事に使ってみたいと思いました。

⑦ 進め方が自分に合っていて、講義内容が自分自身の中に残りやすかったです。自分はまとめるのが下手なので頭で思っていても書き出してみると自分の足りないところも見えて良かったです。今後は悩んだ時や足踏みした時にマインドマップを使おうとおもいます。

（３）成果

① 参加者の思いや欲しているものをしっかりと聞き取ることができた。また、それに対応した内容を提供することができた。

② 各回、参加者の状況に応じてフレキシブルに事業内容を吟味し、実施することができた。

③ 前半の回で学んだことを実践に移すための方法を後半の回で学べるように事業の流れを組むことができた。

④ 野外教育の分野にはまだそれほど浸透していない「マインドマップ」の講習を開き、一定の評価を得ることができた。

（４）今後の課題

① 各回の参加者が定員に届かず、参加者を集めるのに苦労した。来年度にむけ、指導者養成事業でより多くの参加者を集める方法を探していきたい。

② 指導者養成事業として参加者にとっても、吉備にとっても有用となるよう、内容を吟味していく必要がある。

担当：企画指導専門職付　黒田　雅秀